

二七日

みなぬか

浄土真宗のご本尊は、阿弥陀如来です。地獄行きしかないこの私を、お念仏ひとつでお浄土にお救いくださる、たのもしい仏さまです。

私たちは一般に、阿弥陀さまといいますが、お仏壇に安置された絵像や、お寺の本堂におられる木仏を頭にうかべます。どちらも、お立ちになっておられるのが特徴です。それは、迷いの中にある私を救いとうろとされているお姿でもあります。また、「南無阿弥陀仏」の六

阿弥陀如来

字の名号も、ご本尊として礼拝しています。

阿弥陀如来は、法蔵菩薩



六字名号

薩であつたとき、すべての人びとを平等に救うため四十八の誓い（四十八願）をたて、五劫という天文学的な長い時間、修行をつまれば、その誓いをことごとく完成させ、西方に極楽浄土を建設されて阿弥陀如来になられたと、『仏説大無量寿経』に説かれています。この四十八願のうち、第十八願をもっとも重要な願として、本願と呼んでいます。ここでは、阿弥陀如来のおところが私に届いて、阿弥陀如来を疑いなく信心させていただくことで、美しいみほとけの国であるお浄土に生まれることができるかと説かれています。